

ソーシャルワークにおける「専門性」に関する実践的・理論的検討
ナラティブ・アプローチ、コラボレイティブ・アプローチ、オープン・ダイアログを手がかりに
○ 駒澤大学 荒井 浩道 (5909)
キーワード： ナラティブ・アプローチ、コラボレイティブ・アプローチ、オープン・ダイアログ

1. 研究目的

「専門性」は、ソーシャルワークが近代化を図るうえで重要な役割を果たしてきた。近年では多様化・複雑化するニーズに対応するため、より高度な「専門性」が求められている。「専門性」は、無いよりも有ったほうが望ましく、低いよりも高いほうが望ましい。

しかしここ数年、このような「専門性」のあり方を問い直す議論がある。「専門性」は、支援の妨げになってはいないだろうか。さらにいえば、専門職による支援を正当化するレトリックとして機能しているのではないだろうか（荒井 2014）。

またピア・サポート研究の知見によれば、当事者同士の支え合いには専門的支援にはない利点がある（伊藤編 2013）。近年では、当事者性をいかした支援者としてピアサポーターが養成され成果をあげている（相川 2013）。

このような「専門性」のアポリアを克服するうえで注目されるのは、ナラティブ・アプローチ、コラボレイティブ・アプローチ、オープン・ダイアログなどのポストモダン思想にもとづく新しい支援方法である（Malinen, Cooper, Thomas 2011）。

そこで本研究では、ナラティブ・アプローチ、コラボレイティブ・アプローチ、オープン・ダイアログを手がかりに、ソーシャルワークにおける「専門性」のあり方について実践的・理論的に検討することを目的とした。

2. 研究の視点および方法

本研究では、実際の介入事例を対象に、ナラティブ・アプローチ、コラボレイティブ・アプローチ、オープン・ダイアログの視点から理論的に検討した。

ナラティブ・アプローチは、クライアントの経験を複数の物語から成り立っていると考え、その物語の権力の作用に注目する。ここでは支援者は、クライアントのドミナント・ストーリーを解体し、オルタナティブ・ストーリーの復権を支援する（White, Epston 1990=1992）。

コラボレイティブ・アプローチは、クライアントこそがクライアントの専門家であるという無知の姿勢にもとづく。ここでは、支援者に必要とされる「専門性」それ自体が問い直される（Anderson 1997=2001）。

オープン・ダイアログは、クライアントのモノログ（独話）をダイアログ（対話）として開放する。支援者は、対話の可能性を信じ、不確実性に耐えながらクライアントとの会話を続ける（Seikkula, Arnkil, Hoffman 2006）。

3. 倫理的配慮

本研究では、発表者自身による介入事例を用いた。プライバシーの保護、関係者の承諾については、一般社団法人日本社会福祉学会「研究倫理指針」を遵守した。

4. 研究結果

インボランタリーなクライアントへの支援場面において、従来の「専門性」の弊害が浮き彫りとなった。ここでは、支援者が支援を提供しクライアントがその支援の提供を受けるといふ非対称的な支援関係が逆機能を起こした。他方、専門職という立場性から距離をとった支援、専門的な知識や技術を用いない支援、支援することそれ自体を放棄したかわりが、クライアントにとって有効に機能した。

5. 考察

近年の多様化・複雑化するニーズに対応するうえで、ソーシャルワークの「専門性」は限界を示し、逆機能を起こす。だからといって、「専門性」を捨象すれば、ソーシャルワークの基盤を揺るがす。そこで求められるのは、従来の「専門性」に代わる「新しい専門性」である。ナラティブ・アプローチ、コラボレイティヴ・アプローチ、オープン・ダイアログは、ソーシャルワークにおける「新しい専門性」を検討するうえで示唆的である。

【文献】

- 相川章子 (2013)『精神障がいピアサポーター—活動の実際と効果的な養成・育成プログラム』中央法規出版。
- Anderson, H. (1997) *Conversation, Language, And Possibilities: A Postmodern Approach To Therapy*, BasicBooks. (=2001, 野村直樹・青木義子・吉川悟訳『会話・言語・そして可能性—コラボレイティヴとは?セラピーとは?』金剛出版.)
- 荒井浩道 (2014)『ナラティブ・ソーシャルワーク— “〈支援〉しない支援” の方法』新泉社会。
- 伊藤智樹編 (2013)『ピア・サポートの社会学—ALS、認知症介護、依存症、自死遺児、犯罪被害者の物語』晃洋書房。
- Malinen, T., Cooper, S.J., Thomas, F.N. (eds.) (2011) *Masters of Narrative and Collaborative Therapies: The Voices of Andersen, Anderson, and White*, Routledge.
- Seikkula, J., Arnkil, T.E., Hoffman, E. (eds.) (2006) *Dialogical Meetings in Social Networks (Systematic Thinking and Practice Series)*, Karnac Books.
- White, M., Epston, E. (1990) *Narrative Means to Therapeutic Ends*, Norton. (=1992, 小森康永訳『物語としての家族』金剛出版.)

【謝辞】

本研究は、JSPS 科研費 24730471 の成果の一部である。